

～西沢渓谷同行ガイドのご案内～

1. コース及び所要時間 (時間は、混雑度や参加者の体力によって変わります。)

- (1) 西沢渓谷一周、約 10 km＝約 4 時間 30 分 {不動小屋前から渓谷道－七ツ釜五段の滝－不動の滝－展望台－トロッコ道－不動小屋} (時間は、準備運動・休憩・昼食・観覧等併せた時間です。)
- (2) 三重の滝までの往復、約 5 km＝約 2 時間 (時間は、混雑度や参加者の体力によって変わります。)
{不動小屋前から二俣吊り橋－三重の滝－二俣吊り橋－不動小屋}
- (3) この他希望がありましたらご相談ください。

2. 同行ガイドの実施期間

西沢渓谷同行ガイドは、毎年 5 月 1 日から 11 月 30 日まで。ただし、災害・天候・混雑により、安全なガイドができないことが予測される場合には実施をお断りしたり、コース変更をお願いすることがあります。

(具体的には、トップシーズン混雑時。警報・注意報が出された時。等)

3. 同行ガイドをお申し込みされる皆様へ

安全で楽しいトレッキングのため、当ガイドでは次のとおり利用条件を定めています。

- (1) コースを歩く体力を十分に備え、健康であること。
- (2) 飲酒・薬物の使用その他正常な行動・判断を阻害する要因がないこと。
- (3) 服装・装備などに不備がないこと。
- (4) 病院等に通院中のものは、医師の許可を得ること。
- (5) ペットの同伴をしないこと。
- (6) その他安全の確保、依頼時間内でガイドする上で支障がないこと。

このほか、天候・災害・事故の事情あるいは迷惑行為・危険行為をする方に対し、ガイドをお断りしたり中止することがあります。

4. 服装・装備について

ガイドコースは、凹凸が多く砂地や岩盤などいろいろな表情をもっています。靴は、最低でも運動靴、できればトレッキングシューズを着用してください。サンダルやハイヒール等は危険ですのでガイド致しかねます。

西沢渓谷のコースは、標高 1,100m～1,370m の場所にあります。気温が平地より 5～6 度低いことを頭に入れて服装をお決めになってください。

5. お守りいただくこと

- (1) 当コースは国立公園内の特定地区にあります。ゴミは、捨てずに持ち帰りましょう。
また、動植物などの採取は生態系・景観の保護のためにご遠慮いただきますようお願いいたします。
- (2) コース内は原則登り優先です。すれ違う時注意しましょう。また、すれ違う時は挨拶しましょう。
- (3) 大変危険ですので登山道を外れての歩行や写真撮影はご遠慮ください。
- (4) 途中で身体健康に異常があると感じた場合、速やかにガイドへ申し出てください。

6. ガイドの申し込み方法

原則として催行予定日の 3 カ月前から 2 週間前の期間に、同行ガイド利用申込書へ必要事項を記入の上郵送又は FAX してください。

利用者都合によるガイドの中止は、催行前日の 1 週間前までに連絡してください。それを過ぎてのガイドの中止は次の通りキャンセル料を請求させていただきます。

- | | |
|-----------------|------------|
| ①催行日の 7 日前～2 日前 | 正規料金の 30% |
| ②催行日の前日 | 正規料金の 40% |
| ③催行日の当日 | 正規料金の 50% |
| ④連絡のない場合 | 正規料金の 100% |

7. ガイド料 支払いは当日、現金でお願いします。

10 人以下の場合

西沢渓谷 1 周コース・三重の滝往復コース 一律 4,000 円

10 人を超える場合

西沢渓谷 1 周コース・三重の滝往復コース 参加者一人当たり 400 円

8. ガイドの派遣人数は、参加人員に応じて決定いたします。

9. 万一の事故又は怪我について

ガイドの故意又は重大な過失に起因する場合を除き、山梨市及びガイドの会は一切の責任を負いません。

10. 団体のお申し込みの方へ

団体でガイドをお申し込みの場合、注意事項について遵守するとともに、参加者へ十分に周知してください。

添乗・引率される方は、安全で円滑なガイドができるよう協力してください。

※このちらしの記載事項は、断りなく変更する場合があります。 2018.3.1 改製

〒405-8501 山梨市小原西 843 山梨市役所観光課内 西沢渓谷ガイドの会 事務局
電話 0553-22-1111 FAX 0553-23-2800 メール info@yamanashishi-kankou.com





笛吹川の名前の由来と 笛吹権三郎の物語

今から約六百年前の後醍醐天皇の御代、芹沢の里を仰ぎ見る深い谷の底の大きな岩の裏側に、一人の若者とその母が貧しい小屋を作り、人目を忍んで侘しく暮らしていました。

若者の名は藤原権三郎といい、鎌倉から動乱を逃れて生活していたのです。(注)

横笛の名手だった権三郎は、追手を気づかいながらも毎日岩の上に立ち、母の無聊を慰めるためにその横笛を吹きました。

ほどなく、娯楽に乏しい里人にとっても、その美しい音色は、日々の楽しみのひとつとなりました。

ところがある年、降り続いた大雨で、水嵩を増した濁流が一瞬のうちに母と小屋を呑み込んでしまいました。

権三郎は、母を失った孤独を嘆き悲しみ、日ごと夜ごと母の姿を求めて横笛を吹きながら、川沿いをさまよい歩いたのです。その笛の音はもの哀しく、里人の涙を誘うものでした。

しかし、母の姿が見つかるはずもなく、谷に流れる笛の音もいつしか途絶えてしまいました。

それからしばらくして、現在の千鳥湖のあたりで、権三郎は変わり果てた姿となって見つかりました。

人々はこれを哀れみ、春日居村の長慶寺に、笛吹不動尊孝子権三郎としてその霊を手厚く葬ったのでした。

これ以後毎夜の如く、どこからともなく美しい笛の音が、川の両岸に住む人々に聞こえてくるようになり、この川を笛吹川と呼び、異郷の地で侘しく散った権三郎の霊を弔ったのだと語り伝えられています。

～蛇足：雅楽において横笛の前奏を「ネトリ(音取)」と呼ぶことに因んで、権三郎の住んでいた芹沢から奥を「ねとり川」と呼び、下流を「笛吹川」と呼ぶようになったと云います。

芹沢集落においても、お築江神社に孝子権三郎笛吹不動尊として今も祀られている。～

(注)権三郎は公家の藤原道義(ふじはらみちよし)の一族。藤原道義は南北朝の動乱時に、鎌倉幕府を倒そうと謀り、捕らえられて佐渡に流された日野資朝(ひのすけとも)の弟。

(出典：三富の文化財～伝説と方言～より、抜粋)

～西沢溪谷手つかずの自然が身近に～ 「西沢溪谷ガイド」が案内します

○西沢溪谷の動植物

西沢溪谷の豊かな自然は、その景観だけでなく、様々な動植物を育んでいます。

もしかしたら、木々の隙間や木の上からみているかもしれません。

※西沢溪谷は、秩父多摩甲斐国立公園内にあり自然公園法の特別地域に指定されています。岩石・鉱物の持ち出し、指定動植物の採取は自然公園法で禁じられています。

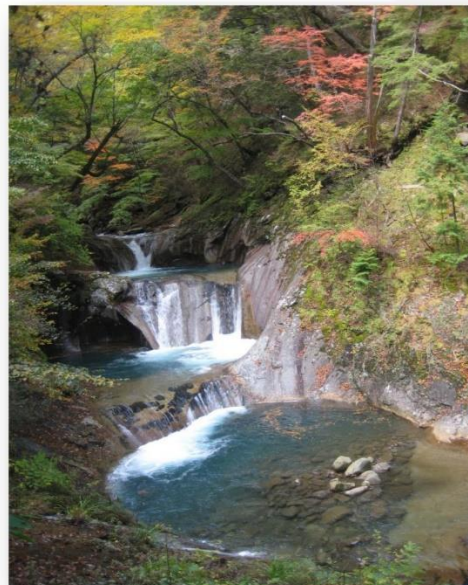
ニホンカモシカ



西沢溪谷は、「21世紀に残したい日本の自然100選」「森林浴の森100選」「水源の森100選」「新日本観光地100選」「日本の滝100選」に選定され、平成20年6月、新たに「平成の名水100選」にも選定されました。

また西沢溪谷を含む一帯は、森林セラピー基地としても認定されています。

紅葉 見頃：10月中旬～11月第一週



哺乳類

ニホンカモシカ
ニホンザル
ニホンジカ
ホンドリ
ホンドキツネ
ツキノワグマ
イノシシ

植物

アズマシャクナゲ
ミツバツツジ(イワツツジ)
ヒカゲツツジ
ヤマツツジ
イロハカエデ
ハウチワカエデ
ブナ
トチノキ
ミズナラ
など

その他

ハコネサンショウウオ
イワナ

鳥類

留鳥
シジュウカラ
コガラ
エナガ
コゲラ
アカゲラ
オオタカ
コジュケイ
夏鳥
センダイムシクイ
オオルリ
キビタキ
コマドリ
ホトギス
サシバ
冬鳥
ジョウビタキ
ツグミ
カシラダカ
ベニマシコ
シメ
マガモ
コガモ
ウグイス
キセキレイ
ミソサザイ
漂鳥
ルリビタキ
カヤクグリ
イワヒバリ
カケス
アオバト